



[Number of appeal against examiner's decision  
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-223076

(43)公開日 平成6年(1994)8月12日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

G 0 6 F 15/21

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

M 8724-5L

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平5-2958

(22)出願日 平成5年(1993)1月12日

(71)出願人 591128763

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボ  
ラトリ

東京都品川区大崎1丁目6番4号

(72)発明者 杉山 裕之

東京都品川区大崎1丁目6番4号 株式会  
社富士通ソーシャルサイエンスラボ  
ラトリ  
内

(74)代理人 弁理士 穂坂 和雄 (外2名)

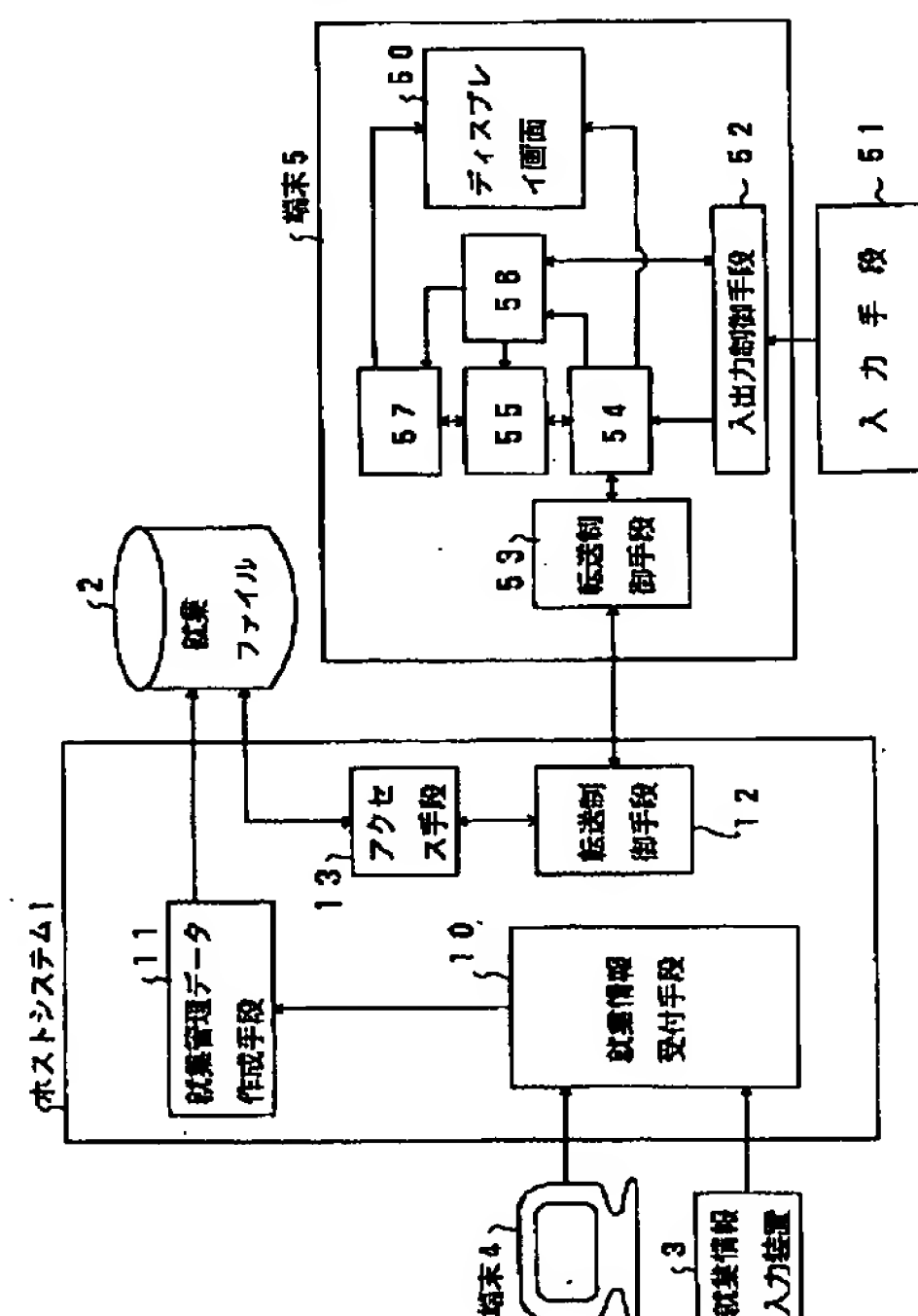
(54)【発明の名称】 仮処理機能を持つ就業管理システム

(57)【要約】

【目的】本発明は、入力されてくる就業情報に従って就業管理データを作成して管理する構成を採る就業管理システムに関し、正確な仮の就業管理データを得られるようにすることを目的とする。

【構成】端末の入力手段から仮処理機能の呼び出し要求があるときに、就業ファイル2の管理する就業管理データを端末に読み出してディスプレイ画面に表示する表示制御手段54と、就業管理データが表示されるときに、端末の入力手段と対話することで、就業ファイル2から読み出した就業管理データに含まれる未確定な就業情報を仮設定する仮設定手段56と、仮設定される就業情報に従って、就業ファイル2から読み出した就業管理データを更新して端末のディスプレイ画面に表示する仮更新手段57とを備えるとともに、仮更新手段57により更新される就業管理データを就業ファイル2へ登録しないように構成する。

本発明の原理構成図



**【特許請求の範囲】**

**【請求項1】** 入力されてくる就業情報に従って就業管理データを作成して就業ファイル(2)に登録していく構成を採る就業管理システムにおいて、  
端末の入力手段から仮処理機能の呼び出し要求があるときに、上記就業ファイル(2)の管理する就業管理データを該端末に読み出して該端末のディスプレイ画面に表示する表示制御手段(54)と、  
上記表示制御手段(54)が就業管理データを表示するときに、端末の入力手段と対話することで、該就業管理データに含まれる未確定な就業情報を仮設定する仮設定手段(56)と、  
上記仮設定手段(56)の仮設定する就業情報に従って、上記就業ファイル(2)から読み出した就業管理データを更新して端末のディスプレイ画面に表示する仮更新手段(57)とを備えるとともに、  
上記仮更新手段(57)により更新される就業管理データを上記就業ファイル(2)へ登録しないよう構成されることを、  
特徴とする仮処理機能を持つ就業管理システム。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【産業上の利用分野】** 本発明は、入力されてくる就業情報に従って就業管理データを作成して管理する構成を採る就業管理システムに関し、正確な仮の就業管理データを得られるようにする仮処理機能を持つ就業管理システムに関する。

**【0002】** 就業管理システムでは、自動あるいは特定の権限を持つ者の操作により入力されてくる就業情報（就業時間情報や休暇取得情報等）に従って、就業管理データ（就業情報の時系列データや就業情報の累計情報等）を作成して管理していく処理を実行する。このような就業管理システムを実用的なものとしていくためには、最近普及しつつあるフレックスタイムの就業規則に対して適切に対処できるような構成を構築していく必要がある。

**【0003】**

**【従来の技術】** 就業管理システムでエラーとして扱う就業情報としては、打刻忘れのような未入力や、休暇／直行／不帰社等の申請漏れといった未入力がある。これらの未入力がある場合には、書類に従って入力すべき就業情報が就業管理者（就業管理システムをアクセスできる権限を有する者）に通知され、この就業管理者が、通知された就業情報を端末から入力していくことで対処するという方法を取っている。

**【0004】** このような未入力の就業情報の入力は、支給される賃金に影響を与えるものであることから、当然、特別の権限を有する就業管理者にのみ限られており、従業員が自分で勝手に入力することを認めていない。

**【0005】** しかしながら、このような原則的方法に従っていると、就業管理者に書類が回るまでに時間を要すること等の理由により、就業管理データが確定するまでに長い日時を要することから、フレックスタイムの就業規則が導入されるときにあって、従業員が自分の就業管理データをその日その日に把握できないという問題点がでてくる。これから、従業員は、明日からの就業日程を計画できないという問題点がでてくることになる。これに対処するために、従業員が自分で手計算でもって就業管理データを計算していくという方法を採用することも可能であるが、それではあまりに不便である。

**【0006】** そこで、従来の就業管理システムでは、就業情報にエラーが発生することを検出するときには、従業員規則に定められている原則的な就業情報を自動設定していくという方法を取っていた。この方法を採用することで、従業員は、自己管理しなくても、その日その日に自分の概略な就業管理データを入手することが可能になることから、明日からの就業日程を計画できるようになるのである。

**【0007】**

**【発明が解決しようとする課題】** しかしながら、このような従来技術に従っていると、エラーの就業情報に対して原則的な就業情報を自動設定していくという構成を取っていることから、従業員は、正確な就業管理データを把握できないという問題点があった。これから、従業員は、明日からの就業日程を正確に計画できないという問題点があったのである。

**【0008】** 本発明はかかる事情に鑑みてなされたものであって、従業員がその日その日に正確な仮の就業管理データを得られるようにすることで、従来技術の有していた問題点を解決できるようにする新たな仮処理機能を持つ就業管理システムの提供を目的とする。

**【0009】**

**【課題を解決するための手段】** 図1に本発明の原理構成を図示する。図中、1は就業管理システムを構成するホストシステムであって、入力されてくる就業情報から就業管理データを作成して管理するもの、2はホストシステム1に接続される就業ファイルであって、ホストシステム1の作成する就業管理データを管理するもの、3はホストシステム1に接続される就業情報入力装置であって、ホストシステム1に就業情報を自動入力するもの、4はホストシステム1に接続される端末であって、就業情報を入力する権限を有する就業管理者により操作されて、就業情報入力装置3で入力されない就業情報を入力するもの、5はホストシステム1に接続される端末であって、従業員により操作されて、従業員に対して就業管理データについてのサービス処理を提供するものである。

**【0010】** このホストシステム1は、就業情報入力装置3や端末4の入力してくる就業情報を受け付ける就業

情報受付手段10と、就業情報受付手段10の受け付けた就業情報から就業管理データを作成して就業ファイル2に登録する就業管理データ作成手段11と、端末5との間のデータ転送処理を司る転送制御手段12と、転送制御手段12からのアクセス要求に応答して就業ファイル2をアクセスするアクセス手段13とを備える。

【0011】一方、端末5は、ディスプレイ画面50と、従業員との間の対話手段となる入力手段51と、入力手段51との間のインタフェース処理を実行する入出力制御手段52と、ホストシステム1との間のデータ転送処理を司る転送制御手段53と、ホストシステム1から送られてくる就業管理データをディスプレイ画面50に表示する表示制御手段54と、ホストシステム1から送られてくる就業管理データを一時的に展開する一時展開域55と、ホストシステム1から送られてくる就業管理データに含まれる未確定な就業情報を仮設定する仮設定手段56と、ホストシステム1から送られてくる就業管理データを仮更新する仮更新手段57とを備える。

【0012】

【作用】本発明では、端末5の表示制御手段54は、入力手段51を介して従業員から仮処理機能の呼び出し要求があると、ホストシステム1のアクセス手段13に対して、指定された就業管理データの読出要求を発行し、この発行に応答して、就業ファイル2から就業管理データが読み出されてくると、その就業管理データを一時展開域55に展開するとともに、その読み出されてきた就業管理データをディスプレイ画面50に表示する。

【0013】就業管理データがディスプレイ画面50に表示されると、仮設定手段56は、入力手段51を介して従業員と対話することで、表示中の就業管理データに含まれる未確定な就業情報を仮設定し、この仮設定処理を受けて、仮更新手段57は、仮設定された就業情報に従って一時展開域55に展開される就業管理データを更新するとともに、その更新した就業管理データをディスプレイ画面50に表示する。

【0014】そして、端末5に展開されるいずれの手段も、仮更新手段57により更新された就業管理データを就業ファイル2に登録する処理を行わないとともに、もし不正にこの登録処理を行うような操作が行われるときには、ホストシステム1は、それが就業管理者の持つIDを指定しての登録要求でないことを理由にその登録要求を禁止していくことで、就業ファイル2に管理される就業管理データが従業員により不正に更新されることを防止するよう処理することになる。

【0015】このようにして、本発明を用いることで、従業員は、就業管理者が就業情報を入力するまでの間、自分で仮に就業情報を入力することで仮の就業管理データを作成してディスプレイ画面50に表示していくことが可能になるので、その日その日に自分の正確な就業管理データを把握することができるようになり、明日から

の就業日程を正確に計画できるようになる。

【0016】

【実施例】以下、実施例に従って本発明を詳細に説明する。図2に、本発明を具備する就業管理システムのシステム構成を図示する。図中、図1で説明したものと同一のものについては同一の記号で示してある。

【0017】3aは図1の就業情報入力装置3に相当するタイムレコーダであって、ホストシステム1に就業情報を自動入力するもの、51aは図1の入力手段51に相当するキーボードであって、従業員との間の対話手段となるもの、500は端末5に展開される就業管理サービスプログラムであって、本発明に特徴的となる就業管理データに対しての仮処理を実行するものである。

【0018】図3に、ホストシステム1の就業ファイル2に管理される就業管理データのデータ構造を図示する。この図に示すように、就業ファイル2に管理される就業管理データは、図3(a)に示すような日々の就業情報(作業時間や休暇実績等)を管理する日次テーブルと、図3(b)に示すような月度の集計結果(時間外時間や作業時間や休日実績等の集計値)を管理する月次テーブルとから構成されるものであり、この日次テーブルは、タイムレコーダ3aから自動入力されてくる就業情報と、端末4から入力されてくる就業管理者の入力する就業情報とに従って作成され、一方、この月次テーブルは、この日次テーブルのデータを集計していくことで作成されるものである。

【0019】図4に、端末5に展開される就業管理サービスプログラム500の実行する処理フローの一実施例を図示する。次に、この処理フローに従って、本発明に特徴的となる就業管理データに対しての仮処理について詳細に説明する。

【0020】就業管理サービスプログラム500は、従業員から、端末5のキーボード51aを介して仮処理要求があると、図4の処理フローに示すように、先ず最初に、ステップ1で、ホストシステム1に対して、仮処理要求のある就業管理データの転送要求を発行する。次に、ステップ2で、この転送要求に応答してホストシステム1から転送されてくる就業管理データを受信して、一時展開域55に展開する。

【0021】続いて、ステップ3で、一時展開域55に展開した就業管理データをディスプレイ画面50に表示する。このとき、就業管理データに含まれる就業情報の未入力の部分については、エラー表示に従ってその旨が分かるように表示する。続いて、ステップ4で、キーボード51aを介して従業員と対話することで、ディスプレイ画面50に表示する就業管理データの持つエラー表示部分に対しての就業情報の仮設定処理を実行する。

【0022】続いて、ステップ5で、この仮設定した就業情報に従って、一時展開域55に展開した就業管理データを仮更新する。続いて、ステップ6で、この仮更新



した一時展開域55の就業管理データをディスプレイ画面50に表示して処理を終了する。すなわち、就業管理サービスプログラム500は、仮更新した就業管理データについてはディスプレイ画面50に表示するだけで、ホストシステム1の就業ファイル2には登録しないよう処理するのである。

【0023】ここで、就業管理サービスプログラム500が、就業管理データの就業ファイル2への登録機能についても持つ場合には、例えば、従業員の呼び出せる仮更新のメニュー画面と、就業管理者の呼び出せる実更新のメニュー画面とを別々に用意することで、仮更新される就業管理データを就業ファイル2に登録しないようにすることが実現できることになる。

【0024】このようにして、従業員は、就業管理サービスプログラム500の提供するサービス処理に従って、図5に示すように、ホストシステム1の就業ファイル2に格納される就業管理データの持つ未入力就業情報に対して、自分で正確な就業情報を仮設定していくことで仮の就業管理データを得られるようになるのである。

【0025】図示実施例について説明したが、本発明はこれに限定されるものではない。例えば、実施例では、就業管理サービスプログラム500が従業員の操作する端末5に展開される構成に従って本発明を開示したが、本発明はこれに限られることなく、この就業管理サービスプログラム500がホストシステム1に展開される構成を採るものであってもよい。

#### 【0026】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、従業員は、就業管理者が就業情報を入力するまでの間、自分で仮に就業情報を入力することで仮の就業管理デー

タを作成してディスプレイ画面に表示していくことが可能になるので、その日その日に自分の正確な就業管理データを把握することができるようになり、明日からの就業日程を正確に計画できるようになる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の原理構成図である。

【図2】本発明の就業管理システムのシステム構成図である。

【図3】就業管理データの説明図である。

【図4】就業管理サービスプログラムの実行する処理フローである。

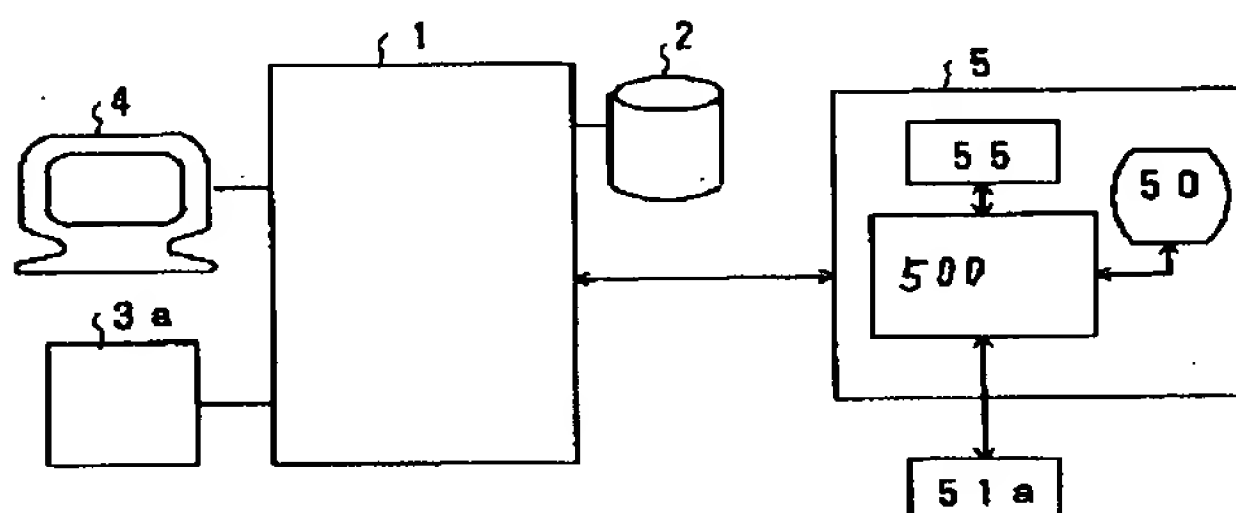
【図5】就業管理サービスプログラムにより処理される就業管理データの説明図である。

#### 【符号の説明】

- 1     ホストシステム
- 2     就業ファイル
- 3     就業情報入力装置
- 4     端末
- 5     端末
- 10    就業情報受付手段
- 11    就業管理データ作成手段
- 12    転送制御手段
- 13    アクセス手段
- 50    ディスプレイ画面
- 51    入力手段
- 52    入出力制御手段
- 53    転送制御手段
- 54    表示制御手段
- 55    一時展開域
- 56    仮設定手段
- 57    仮更新手段

【図2】

本発明の就業管理システムのシステム構成図



【図3】

就業管理データの説明図

作業時間	休暇実績	....

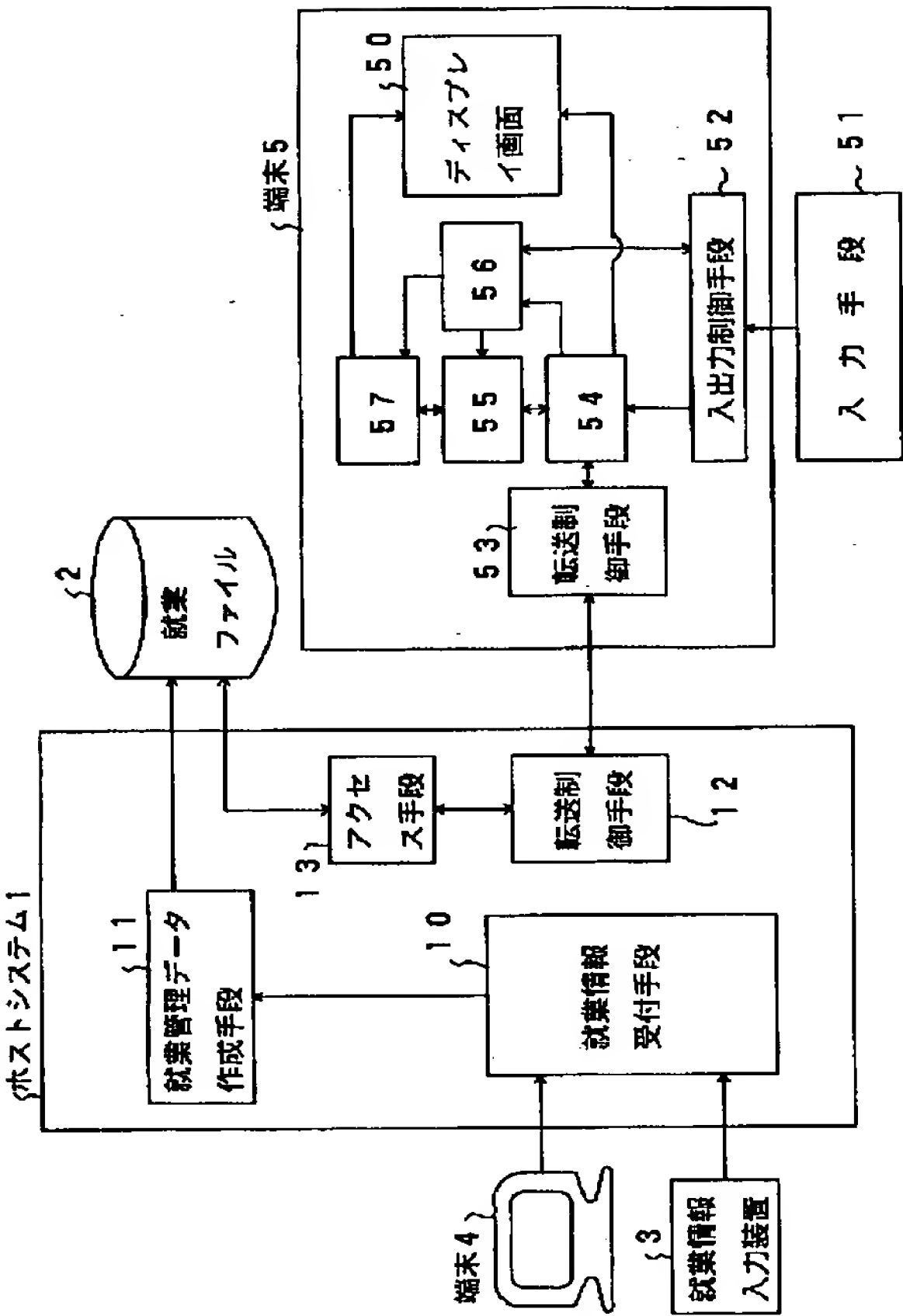
(a)

時間外時間	
作業時間	
休日実績	

(b)

【図1】

本発明の原理構成図



【図5】

就業管理サービスプログラムにより処理される就業管理データの説明図

仮処理前					仮処理後				
日	出社	退社	エラー		日	出社	退社	エラー	
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
11	840	2112			11	840	2112		
12		2000			12	910	2000		
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
時間外時間					時間外時間				
35:43					45:25				
作業時間					作業時間				
192:53					202:35				
.....					.....				

【図4】

## 就業管理サービスプログラムの実行する処理フロー

